



教育支援ツールを徹底活用する!

特集

2012年度東海大学

新任教員大学説明会 開催
P1~P4

- 教育支援ツールとは?
- FD活動は義務なのか
- 目から鱗の「いい授業」
- 授業マナーの向上方法
- ミニツツペーパーの活用
- 双方向授業の基本とは?
- 成績評価と学習意欲
- 授業についてのアンケート

■ 実践しました!

コミュニケーションカードを使用した
ペア・ワーク



ペア・ワークの様子



新任教員大学説明会第2部 教育支援センター企画の様子

2012年4月2日に「2012年度東海大学新任教員大学説明会」を湘南校舎で開催(一部テレビ会議システム利用)し、各校舎から新任教員(医学部を除く)合計39名が出席しました。山田副学長、橋本副学長による東海大学の理念及び教育・研究についてのご講演を中心とし、総合情報センター高橋所長からは教職員ポータルに関してのご説明、また池田ハラスメント防止人権委員会委員長より、ハラスメント防止についてのお話をいただきました。

今年度は、第2部として教育支援センター押野谷次長が「教育活動支援のためのツールとその活用について」と題した企画を実施しました。授業を担当する上での心構えやヒントを盛り込みながら、FDツールについての解説が行われました。その後、新任教員同士でペアとなり、コミュニケーションカードを使用したペア・ワークを行いました。ペア・ワークの効果はすぐにあらわれ、一気に和やかな雰囲気となりました。



教育支援センター
押野谷次長

今回の企画は、新任の先生方に教育支援ツールを紹介し、徹底活用していただくためのものですが、すでに活用していただいている先生方にも新たな気付きがあると思われるので、企画内容をまとめた次項の記事を是非ご一読ください。

教育活動支援のためのツールとその活用について

教育支援センター 次長 押野谷 康雄

2012年度東海大学新任教員大学説明会 教育支援センター企画より

教育支援ツールとは？

「レントゲン」「エコー」「CTスキャン」「MRI」「内視鏡」等に相当するようなものです。「体の状態」と同様に、「教育の状態」をみることができます。

〔表1〕教育支援ツールの一例

学習支援室 (S-Navi, E-Navi)
サイバーキャンパス「ネット学習」
授業についてのアンケート
ミニッツペーパー
入学前教育
学生の選んだ「いい授業」
キャンパスライフアンケート
FD研究会
シンポジウム・講演会
授業公開
卒業にあたってのアンケート
新任教員大学説明会
新任教員フォローアップ研修会
コミュニケーションニュース「UP」
FD関連情報「INFORMATION」

(UP49号 関連記事より)

これらのツールを用いて「授業内容や方法の改善を図るための組織的な研修や研究」を行うことをFD活動といいます。特に東海大学では「学生の力を引き出し伸ばすための大学としてのすべての取組」をFDと捉えています。

義務化された「FD研修」と「FD研究」

例えば、研修や研究を「相撲」で言い換えると、日頃からの「稽古」と「相手を研究すること」に相当します。

それでは、研修や研究はどうすればできるのでしょうか？

教育支援センターのホームページでは、FD研究会や、学外セミナー等の情報を提供していますので、積極的に研修会、研究会に参加していただきたいと考えています。



教育支援センターホームページ

「いい授業」は目から鱗

「いい授業」はどのような工夫をしているのでしょうか？

それを知るには、まずは、すべての授業を対象として実施している授業公開、授業参観制度を活用することをお勧めします。工夫を凝らした授業がたくさんありますので、是非とも授業参観を通じて、目から鱗の体験をしていただきたいと思っています。

CASE 「学生との対話」のすすめ

できるだけ教室内を回りながら学生のそばに行き対話をします。例えば、「〇〇さん、東海大学の学長の名前は？」といった質問をした際、もし学生が不安そうであったら「高…」等のちょっとしたヒントを積極的に使うようにします。

学生は、質問をされるとドキドキしてしまうので、コミュニケーションをとる上でちょっとした工夫として、授業の初めのうちに「この先生が質問をするときには緊張しなくても大丈夫」という安心感を与えておくと、授業中の学生との対話がスムーズに進みます。

〔表2〕よくない授業ワースト3

「よくない授業」ワースト3

- 1 しゃべるのが早すぎる・板書の字が読み取りにくい
- 2 話し方が単調・聞こえにくい
- 3 学生の理解を確かめないで進む

(東海大学Teaching Award2011 記事より)

〔表2〕は、「いい授業」「よくない授業」アンケート結果です。この3点はどれも当たり前のことですが、学生は敏感です。授業を進める上では留意していただきたいポイントとなります。

「授業マナー」は1回目の授業で！

1回目の授業で授業マナーについてきちんと「宣言」することは大切です。また、学科等で明確にガイドラインを決めると、さらにスムーズに対応ができます。他大学では、教室の入口に貼り紙をしている例や、シラバスと一緒に授業での決まり事を配布するケースもあります。他にも、座席指定をすることによって、効果を出している事例もあります。

別の視点からの授業マナー向上へのアプローチとして効果的なのは、顔を知っている学生を見かけた際に、先生から積極的に挨拶をすることです。「大学の先生から声を掛けられた！」ということは、実は学生にとって想像以上の感動体験となり、授業の雰囲気よくなります。

POINT 授業マナーを向上させるためには？

- ・教室の後ろの座席の学生に積極的に話しかける
- ・学生の名前を覚えて呼んであげる
- 授業開始前の何気ない会話からはじまる
- ・授業中に教壇の上にならずにいるのはもったいない
- 教室内を回って学生と対話をする

ミニッツペーパーで「理解度」の測定が可能！

ミニッツペーパーを使って体の定期健康診断と同様に、授業の「工夫の効果」や「理解度」「関心」を日頃からチェックできると、いかに授業を改善すれば良いかを考えるヒントを得ることができます。

POINT 今日授業はどうだったかを知るためには

東海大学Minute Paper(ミニッツペーパー)には、

- ・今回の授業におけるPointと疑問な点について
- ・今回の授業におけるあなたの理解の程度
- ・関心が持てるような授業内容であったか

等の設問が用意されています。

POINT 思っているほど学生は理解していないことも！

- ・板書の「見て写し習慣病」
- やっている感を残してしまうノートづくりの脱習慣
- ・「分からない」の累積が学習意欲の低下を招く
- 毎回の授業の理解度チェックは重要である

「学生の力を引き出し伸ばす」ための教育のPDCAサイクルを常に稼働させるためには、客観的に測定可能な指標が不可欠となります(教育のPDCAサイクルにおけるC:チェック)。日頃から「理解度」「関心」を客観的に測定しましょう。

CASE 提出された質問に答える効果

ミニッツペーパーに書かれている疑問点等は、次の授業の際に解説をします。良い質問を記入した学生の名前を呼んで答えてあげることも教室に動きが起きるため、大教室では特に効果的です。

ミニッツペーパーは、「理解度」「関心」を客観的に測定でき、さらに双方向授業を促進するためのツールとしても使うことができます。

Minute Paper (ミニッツペーパーシステム)

「ミニッツペーパーシステム(読み取り装置)」「東海大学Minute Paper(用紙)」は、各校舎講師室等に設置されています。また、操作についてのマニュアルは教育支援センターホームページからダウンロードすることが可能です。

「東海大学Minute Paper(用紙)」以外にも、教育支援センターホームページには、いろいろな用途に合わせたレイアウト(ひな型)を掲載していますので、ご活用ください。



ミニッツペーパーを使用している授業

使用方法に不安がある場合は、教育支援課にご相談ください。問い合わせ先：教育支援課（湘南校舎720-2096）担当スタッフが一緒に操作をしながら説明をする等、サポートをさせていただきます。

双方向授業は大教室でもできます！

是非「アクティブラーニング＝学生参画型授業」を取り入れていただきたいと思います。例えば、毎日3科目履修している学生が、授業中に声を出した科目が1科目もないというケースは実際に起きてしまっています。履修者数の規模にかかわらず、学生同士、教員と学生の会話がある授業運営を推進していく必要があります。(UP44号6ページに関連記事)



アクティブラーニングを取り入れた授業

CASE 1 講義と討論をパッケージ化する

(他大学の取り組みから)

- ・講義 30分
学生は、30分の中に次の討論の時間のネタがあると思えば真剣に講義を聞きます。
- ・討論 60分(質疑応答を含む)
グループディスカッションの前にペア・ワーク
ペアは自ら主体的に意見を述べることができ、また、聴く側も傾聴力が付きます。

CASE 2 個人ワークからペア・ワークへの展開

- ・個人ワーク
テキスト、プリント等から数ページを指定し読ませます。
- ・ペア・ワーク
隣の学生と相談しながら重要なところに下線を引き、ポイントを整理します。
- ・発表、まとめ
いくつかのチームに発表してもらいます。ポイントのまとめ方がよいチームには、再度発表してもらいながら、全員がマーカーで線を引きます。

■小テスト用マークシート(3種類)(A4版)

ミニッツペーパーシステムで読み取りができます。

■コミュニケーションカード(A6版)

ミニッツペーパーシステムによる読み取りや集計を行わないため、手軽に理解度等を確認することができます。

CASE3 ペア・ワーク(ピア・ティーチング)の活用

- ・個人ワーク
簡単な問題を出題し解答させます。
- ・採点基準(途中点、減点ポイント等)を示し、隣の学生の解答を採点させます。
- ・ピア・ティーチング
採点結果内容を学生が互いに話しながら確認します。
- ・発表、まとめ
数チームが黒板に書いて発表します。

アクティブラーニング があると便利なグッズ

があると楽しい双方向電子アイテム

- ・クリッカー
無線リモコンを利用したオーディエンスレスポンスシステム(赤白裏表の色紙でも代用可能です)

- ・模造紙サイズの付箋紙
- ・全員が同時に見ることができ大きなストップウォッチ

CASE4 究極の双方向授業

学生に試験問題を作成してもらいます。

中間試験、定期試験等の問題と解答をセットで学生に作成させることは、自分が何を勉強して、何を必要とするのかを理解させるという意味でとても有効です。

成績の評価方法によって学習意欲は大きく変わる！

CASE 初年次の成績こそ重要

- ・1年次の成績が卒業に影響する
→早大理工学部(UP37号に関連記事)
- ・初年次の通算GPA = 1.5 単位取得率 80%が4年間で卒業するための分岐点
→工学部エネルギー工学科(UP42号に関連記事)

このケースからも、初年次の学生に対して、たゆまず努力をし続けたい「成績評価システム」の実践がそれぞれの授業で不可欠であるといえます。

では、それはどのようなシステムでしょうか？

→授業で行う「小テスト」「レポート」「ディスカッション」等の結果を最終成績の70%まで反映させることを、成績評価の方法としてシラバスにて学生に示します。

POINT 定期試験は評価の30%！

- ・成績評価のひとつの目安
→定期試験前までにはおよそ70%がすでに評価・フィードバック済みであり、定期試験の割合はおよそ30%
- ・学生に現状をフィードバックする工夫が必要

このことにより、学生は、日頃から勉強したくなる、しなくては行けないという意識を持つようになります。

「ミニツツペーパー」 + 「授業についてのアンケート」 ⇒ 教育力向上

「授業についてのアンケート」は、授業についての意見等を調査するもので、その結果を授業内容の充実・改善に役立てることを目的としています。

POINT 授業の質保証ができたかの最終チェック

- ・学期におけるひとつひとつの授業の最終確認
- ・振り返りに使うことができる

授業の健康診断は3か月に1回では危ないので、ミニツツペーパーシステム等の教育支援ツールを活用しながら、こまめにチェックを行ってください。日頃から客観的にチェックをすれば、学生が困っていることを把握し、速やかに対応することができます。

これからの大学には、「サービス」「マーケティング」の視点は欠かすことのできないものです。これらを踏まえた「学生の指導」「授業運営」をよろしく願いいたします。

実践しました！
コミュニケーションカードを使用した
ペア・ワーク

コミュニケーションカード	201 年 月 日 曜日 時間	2. 今日授業で興味深かったことは何ですか
	科目名: 日付 時限	今日の授業で興味深かったことは何ですか
	教員名: 科目名 教員名	3. その他、疑問・要望など
	学生証番号: 学生証番号 氏名	4. 先生からのコメント
氏名:	今日の授業のポイントは何ですか	先生からのコメント

新任教員大学説明会では、実際のコミュニケーションカードの設問を一部アレンジし、自己紹介ツールとして使用しました。

このように、工夫次第で色々な使い方ができます。



FD、SD、教職協働 について情報をお寄せください。
(校舎、学部、職場単位で取り組んでいる活動等)
教育支援センター教育支援課
Tel: 0463(58)1211(代)
E-mail: shien@tsc.u-tokai.ac.jp
URL: http://www.esc.u-tokai.ac.jp/